

# 中世の若狭を 治めた守護職 武田氏の盛衰



後瀬山遠景  
(小浜市教育委員会提供)

**安** 芸分郡守護武田信榮は、永享12(1440)年に足利義教の命を受け、一色義貫を討ちました。これにより、義貫の所領若狭国を拝領して若狭守護職となり、ここに若狭武田氏が成立したのです。

若狭守護職は初代信榮から8代元明まで続きます。2代信賢は領内



武田元光肖像  
(発心寺蔵)

の寺社領等の荘園を強行に押さえ、若狭支配の経済的基盤を築き上げました。また、応仁・文明の乱の際には東軍の将として活躍しました。なお、4代元信までは西津に守護館がありました。その跡を継いだ5代元光が大永2(1522)年に後瀬山の山上に城郭を築き、併せて山麓に館を建設しました。

後瀬山城跡は、若狭を東西に通過する丹後街道を足下におき、小浜湊を眼下に見下ろせる場所にありま

す。これは、経済的にも軍事的にも適した場所に城館を設置することにより、長年争っている丹後一色氏の残党が小浜に入ってくるのを防ぐとともに、日本海交易の主要港となっていた小浜湊の経済力を掌握する意



後瀬山城跡  
築山遺構  
(小浜市教育委員会提供)



後瀬山城跡  
出土遺物(茶器)  
(小浜市教育委員会蔵)

図があつたものと思われま

す。また、若狭武田氏は代々文芸にも力を入れ、和歌・連歌・蹴鞠などを嗜み、三条西実隆など当代一流の文化人と交流を持ちました。後瀬山城跡には発掘調査により、山上に築山遺構や建物跡があり、茶器なども確認されています。特にこうい

う庭園遺構は全国的にも他に3例しか確認されておらず、まさに文化的素養の高かつた若狭武田氏らしいものといえます。

しかし、大永7(1527)年の京都桂川の合戦で、5代元光の軍は大敗北を喫し、この混乱に乗じた丹後海賊が若狭を襲撃。これにより若狭武田氏は衰退の途を進むこととなります。その後の信豊、義統、元明も情勢を転換することはできず、永禄11(1568)年、朝倉義景の軍勢が若狭へ侵攻し、後瀬山城を攻撃した際に元明は越前へ連れていかれてしまいました。

天正元(1573)年、丹羽長秀が若狭を領することとなり、天正9(1581)年には織田信長から逸見氏の旧領の内3千石をあてがわれ、若狭武田氏は辛うじてその名望を保っていました。しかし、天正10(1582)年、本能寺の変が起り、山崎の合戦に勝利した羽柴秀吉によって光秀が滅ぼされると、元明は明智光秀に同心したということ

で近江海津に呼び出され、長秀によって切腹させられます。栄華を誇つた若狭武田氏は滅びることとなったのです。

## 関連史料・ゆかりの地

### 発心寺



武田元光墓塔

若狭武田氏5代元光は、発心寺を再興して隠居し天文20(1551)年に没しました。元光墓塔は宝篋印塔で、没後直ちに造立されたものと推定されます。若狭武田氏歴代当主の墓塔中、埋蔵施設として現存するものはこの1基のみです。

【住所】小浜市伏原45-3  
(JR小浜駅より徒歩10分)